

2. インフルエンザ罹患時の対処

インフルエンザにかかった場合、【快復するまでの日数】は「7～9日」が34.3%と最も多いが、【保育園・幼稚園の欠席日数】は「4～6日」が25.7%と最も多くなっており、完全に治りきる前に通園し始めていることがわかる。これは通園先で他の園児にインフルエンザを感染させる可能性があることを示しており、本人について完治後の登園を促すだけでなく、他の園児に対しても予防接種など十分な対策を講じる必要性を示唆している。

【インフルエンザにかかった場合】 (%)

	快復するまでの日数			保育園・幼稚園の欠席日数		
	全体	保育園児 母	幼稚園児 母	全体	保育園児 母	幼稚園児 母
N	35	21	14	35	21	14
1～3日	17.1	19.0	14.3	17.1	14.3	21.4
4～6日	17.1	9.5	28.6	25.7	38.1	7.1
7～9日	34.3	38.1	28.6	14.3	19.0	7.1
10～12日	17.1	23.8	7.1	5.7	9.5	0
13日以上	14.3	9.5	21.4	17.1	19.0	14.3
無回答				20.0	0	50.0

3. 子供のインフルエンザ罹患時の問題点

今シーズン、子供がインフルエンザにかかった母親(35名)が『最も困ったこと』は、「熱が高いなど体の具合が悪くつらそうなこと」(42.9%・15名)、「保育園・幼稚園を休ませなければならないこと」(22.9%・8名)など罹患した子供本人に関することと並んで、「母親(父親)が会社を休まなければならないこと」(22.9%・8名)を挙げる者が多かった。

通園先による相違が顕著に現れており、〔幼稚園児母〕では「熱が高いなど体の具合が悪くつらそうなこと」(64.3%・9名)に集中している。一方、〔保育園児母〕では、「熱が高いなど体の具合が悪くつらそうなこと」をはじめ上位の3項目がほぼ同程度で挙っている。〔保育園児母〕で「保育園・幼稚園を休ませなければならないこと」が多いのは、子供本人のためばかりでなく、「母親(父親)が会社を休まなければならないこと」とも関連した“親の事情”の部分もあると思われる。

◆子供が罹患して一番困ったこと (%)

	全体	保育園児母	幼稚園児母
N	35	21	14
1 熱が高いなど体の具合が悪くつらそうなこと	42.9	28.6	64.3
2 保育園・幼稚園を休ませなければならないこと	22.9	33.3	7.1
3 母親(父親)が会社を休まなければならないこと	22.9	28.6	14.3
4 人にうつさないように気をつけること	2.9	0	7.1
5 治療費・医療費がかかること	2.9	4.8	0
6 持病を悪化させること	0	0	0
7 その他	5.7	4.8	7.1

4. 今後のインフルエンザ罹患時の対処 (MA)

今シーズン、子供がインフルエンザにかかった母親(35名)の今後の対処法としては、「うがいや手洗いなど、日頃の生活習慣に気をつける」「予防接種(ワクチン)を受ける」「かかったかなと思ったらすぐに病院に行く」(いずれも54.3%・19名)などが過半数を占めている。いずれも予防や初期での対応を反省していることがうかがえる。

こうした今後の対処法については、「保育園児母」の方が「幼稚園児母」よりも今後心がけたいとする割合が高い。日ごろからの生活習慣や情報収集、初期段階での医療期間への受診や休養といった項目の差が大きいことから、保育園児が幼稚園児よりも快復までの日数や欠席日数が長くなってしまったことに起因していると推測できる。また、子供の年齢も関連すると思われるが、今回はそこまでは調査していない。

「予防接種(ワクチン)を受ける」については通園先による差は少なく、今シーズン予防接種を受けなかった子どもがインフルエンザにかかってしまった場合には、いずれの母親も過半数が接種する意向である。

◆罹患しての反省点(MA)		(%)		
		全体	保育園児母	幼稚園児母
N		35	21	14
1	うがいや手洗いなど、日頃の生活習慣に気をつける	54.3	61.9	42.9
2	予防接種(ワクチン)を受ける	54.3	52.4	57.1
3	かかったかなと思ったらすぐに病院に行く	54.3	61.9	42.9
4	予防法や治療法について、日頃から情報をチェックする	40.0	47.6	28.6
5	かかったかなと思ったらすぐに保育園・幼稚園を休ませ、	34.3	47.6	14.3
6	日頃から初期症状でインフルエンザとわかるように、情報をチェック	20.0	19.0	21.4
7	予防薬(医師に処方してもらう)を飲む	8.6	9.5	7.1
8	日頃からビタミン剤などを飲むようにする	2.9	0.0	7.1
9	かかったかなと思ったらすぐに薬局で薬を買って服用させ	0.0	0.0	0.0
10	その他	5.7	4.8	7.1

IV. 薬剤の認知状況

1. インフルエンザの診療時に処方された薬剤

①インフルエンザの診療時に処方された薬剤の認知

子供がインフルエンザにかかった母親(35名)に病院で処方された薬剤の名前を尋ねたところ、「覚えている」のは約1割(11.4%・4名)と少なく、大半は「忘れた」と答えている。

また2割近い母親が「最初から知らなかった」(17.1%・6名)と答えているが、これは〔保育園児母〕の14.3%(3名)、〔幼稚園児母〕の21.4%(3名)に相当する。

処方された薬剤は8割が「粉末服用」(80.0%・28名)、約1割が「錠剤内服」(11.4%・4名)であり「粉末吸入」「カプセル内服」は1～2名程度と少ない。

剤型について通園先別の相違はみられない。

◆病院で処方された薬の名前 (%)

	全体	保育園児母	幼稚園児母
N	35	21	14
覚えている	11.4	14.3	7.1
忘れた	68.6	71.4	64.3
最初から知らなかった	17.1	14.3	21.4
無回答	2.9	0	7.1

◆薬の剤型(MA)

	全体	保育園児母	幼稚園児母
N	35	21	14
粉末服用	80.0	81.0	78.6
錠剤内服	11.4	9.5	14.3
粉末吸入	5.7	4.8	7.1
カプセル内服	2.9	0	7.1
無回答	2.9	4.8	0

②インフルエンザの診療時に処方された薬剤の説明の有無

薬剤処方時の医師の説明は、ほとんどが「あった」(88.6%・31名)と答えている。しかし、わずかではあるが「なかった」(8.6%・3名)との回答があった。一般にこうしたケースでは、確かに“説明がなかった”場合だけでなく、医師側では説明したつもりでも、患者側に十分に認識されなかった場合もあることから、インフォームド・コンセントの一層の徹底が期待される。なお、医師の説明の有無についても通園先別の相違はない。

◆医師の説明 (%)

	全体	保育園児母	幼稚園児母
N	35	21	14
あった	88.6	90.5	85.7
なかった	8.6	9.5	7.1
無回答	2.9	0	7.1

③インフルエンザの診療時に処方された薬剤の効果

病院で処方された薬の効果については、半数が「効いたと思う」(54.3%・19名)と答えており、「効かなかったと思う」は1割に満たない。その一方で、3分の1は効果があったかどうか「わからない」(34.3%・12名)と答えている。

「効いたと思う」と答えているのは〔保育園児母〕(61.9%・13名)の方が〔幼稚園児母〕(42.9%・6名)より高い傾向があるが、「わからない」は通園先にかかわりなく、いずれも約3分の1とほぼ同率であった。

◆処方された薬の効果 (%)

	全体	保育園児母	幼稚園児母
N	35	21	14
効いたと思う	54.3	61.9	42.9
効かなかったと思う	8.6	4.8	14.3
わからない	34.3	33.3	35.7
無回答	2.9	0	7.1

2. 「リレンザ」の認知状況

①「リレンザ」の認知状況

今シーズンにインフルエンザにかかった人(35名)に対し、グラクソ・ウェルカム社の「リレンザ」について尋ねたところ、「名前を見聞きしたことがある」と答えたのは5.7%・2名(保育園児母、幼稚園児母各1名)であり、認知度は低い。

◆「リレンザ」の認知状況 (％)

	全体	保育園児母	幼稚園児母
N	35	21	14
名前を見聞きしたことがある	5.7	4.8	7.1
知らない	94.3	95.2	92.9

②認知経路

「リレンザ」を知っている場合の認知経路は、「テレビニュース」(2名)や「新聞」(1名)など主にマスコミである。〔保育園児母〕の場合は、「仕事先の医務室・診療所」(1名)も情報源の1つとなっている。

◆認知経路(MA) (名)

	全体	保育園児母	幼稚園児母
N	2	1	1
1 テレビニュース	2	1	1
2 新聞	1	1	0
3 仕事先の医務室・診療所	1	1	0

*その他の経路については回答なし。

③服用意向

〔保育園児母〕〔幼稚園児母〕とも、【自分】の場合は「服用したい」と答えているが、【子供】に対してはいずれも「どちらともいえない」と答えている。これは本調査結果にも現れたように、「リレンザ」がまだ広く一般的に認知されていないので、薬効や副作用などに対する不安があるため、子供への服用をためらっているものと思われる。

◆服用意向 (名)

	②自分の服用意向			③子供への服用意向		
	全体	保育園児母	幼稚園児母	全体	保育園児母	幼稚園児母
N	2	1	1	2	1	1
はい	1	1	0	0	0	0
いいえ	0	0	0	0	0	0
どちらともいえない	1	0	1	2	1	1

V. インフルエンザに効果的な薬剤についての意識

1. 罹患初期の服用により症状を軽減する薬剤についての評価

“2日以内の服用で効果がある”薬剤について、【母親】自身の〔服用意向〕は計85.8%（絶対に病院に行く35.3%、たぶん病院に行く50.5%）、【子供】に対しては「病院へつれて行く」85.8%と、いずれも8割以上が希望している。しかし【母親】の〔服用意向〕のうち5割が「たぶん」とやや消極的な意向であることから、【子供】についても積極的意向より消極的意向の方が多いためと推測される。

【母親】【子供】とも、通園先別にみた〔服用意向〕は全体的には同様の傾向を示し、顕著な差はみられない。

ただし僅差ではあるが、〔非服用意向〕は【母親】【子供】とも〔保育園児母〕（母子いずれも3.8%）の方が〔幼稚園児母〕（母子いずれも1.2%）より高い傾向がみられる。これは『2（4）来シーズンの予防接種』においても〔非接種意向〕は〔保育園児母〕（21.7%）の方に多いという結果に類似しており（幼稚園児母8.4%）、保育園児を持つ母親は薬剤の使用に対してやや警戒心が強い傾向があるように思われる。警戒心が強い理由については、子供の年齢によるのか、家の“外”に出ていることで専業主婦とは異なる情報源に触れるためか、本調査ではそこまで尋ねていないので不明である。

◆罹患初期の服用により症状を軽減する薬剤についての評価 (%)

	①自分の服用意向			②子供への服用意向		
	全体	保育園児母	幼稚園児母	全体	保育園児母	幼稚園児母
N	190	106	84	190	106	84
絶対に病院へ行く	35.3	33.0	38.1	85.8	86.8	84.5 *
たぶん病院に行く	50.5	49.1	52.4			
わからない	11.1	13.2	8.3	11.1	8.5	14.3
たぶん病院へは行かない	1.1	1.9	0			
病院には行かない	1.6	1.9	1.2	2.6	3.8	1.2 **
無回答	0.5	0.9	0	0.5	0.9	0

* 病院へつれていく

**病院へはつれていかない

罹患初期の服用の場合、【1回の治療費】は7割が“3000円以下”としているが、特に「2000円以下」(40.5%)の希望が多い。一方で、6人に1人が「4001～5000円以下」(15.8%)でもかまわないとしている。こうした傾向は通園先にかかわらず同様である。

◆1回の治療費の上限 (%)

	全体	保育園児母	幼稚園児母
N	190	106	84
2000円以下	40.5	42.5	38.1
2001円～3000円以下	28.9	23.6	35.7
3001円～4000円以下	2.1	0.9	3.6
4001円～5000円以下	15.8	16.0	15.5
5001円～6000円以下	1.1	1.9	0
6001円以上	6.3	6.6	6.0
無回答	5.3	8.5	1.2

2. 家族が罹患した場合の予防薬の子供への服用についての意識

予防薬の子供への服用については一応9割近くが容認しているが、「非常に良いことだと思う」との積極的容認は13.7%に止まり、“場合によっては”という条件の下での容認が圧倒的に多い。また約1割は「あまり良いことだとは思わない」「全く良くないことである」と批判的である。

こうした傾向は通園先にかかわらず同様である。また前問と同様、否定的な意向は〔保育園児母〕の方が強い傾向がある(保育園児母・計14.2%、幼稚園児母・計7.1%)。

◆予防薬の子供への服用意向 (%)

	全体	保育園児母	幼稚園児母
N	190	106	84
非常に良いことだと思う	13.7	13.2	14.3
場合によっては良いことだと思う	72.6	68.9	77.4
あまり良いことだとは思わない	10.0	12.3	7.1
全く良くないことである	1.1	1.9	0
無回答	2.6	3.8	1.2

子供に予防薬を服用させる場合、【1回の治療費】としては、前問の『罹患初期の服用』と同様、“3000円以下”が7割である。しかし「2000円以下」37.8%、「2001～3000円以下」32.3%とほぼ同程度に分散しており、『罹患初期の服用』に比べて金額がややアップする傾向がうかがえる。この傾向は通園先別の意向についても同様で、特に〔保育園児母〕では「4001～5000円以下」が23.0%と、『罹患初期の服用』(16.0%)の場合を上回っている。

◆1回の治療費の上限 (%)

	全体	保育園児母	幼稚園児母
N	164	87	77
2000円以下	37.8	37.9	37.7
2001円～3000円以下	32.3	23.0	42.9
3001円～4000円以下	1.2	1.1	1.3
4001円～5000円以下	16.5	23.0	9.1
5001円～6000円以下	0	0	0
6001円以上	6.1	6.9	5.2
無回答	6.1	8.0	3.9

3. 病院処方予防薬による予防接種への態度の変化

①態度の変化

インフルエンザに対して治療・予防効果のある薬剤が病院で処方される場合、予防接種については「やはり受けると思う(変化なし)」との意向が45.3%と最も多く、今シーズン予防接種を「受けさせた」母親の81.5%が予防接種を希望している。

また「やはり受けないと思う(変化なし)」は22.1%であり、新薬が処方される場合でも予防接種に対する態度は約7割が従来どおりと答えている。

◆病院処方の予治療・防薬による子供への予防接種への態度の変化 (%)

	全体	保育園児 母	幼稚園児 母
N	190	106	84
やはり受けると思う(変化なし)	45.3	44.3	46.4
やはり受けないと思う(変化なし)	22.1	29.2	13.1
受けたいと思っているが受けなくなると思う	12.6	7.5	19.0
その他	16.8	15.1	19.0
無回答	3.2	3.8	2.4

◆今シーズンの接種状況と治療・予防薬による予防接種への態度の変化 (%)

	全体	受けさせ た	今シーズン 受けさせていない(理由)				
			ワクチン 不足	体質上の 問題	その他		
N	190	27	162	35	7	119	
来 シ ー ズ ン	やはり受けると思う(変化なし)	45.3	81.5	39.6	65.7	42.9	31.1
	やはり受けないと思う(変化なし)	22.1	3.7	25.3	5.7	42.9	30.3
	受けたいと思っているが受けなく	12.6	3.7	13.6	20.0	0	12.6
	その他	16.8	7.4	18.5	5.7	14.3	22.7
	無回答	3.2	3.7	3.1	2.9	0	3.4

◆来シーズンの予防接種意向と治療・予防薬による予防接種への態度の変化 (%)

	全体	来シーズンの予防接種意向					
		必ず受け させたい	おそらく 受けさせ る	どちらと もいえな い	おそらく 受けさせ ない	受けさせ たいとは思 わない	
N	190	21	63	76	25	5	
来 シ ー ズ ン	やはり受けると思う(変化なし)	45.3	71.4	81.0	25.0	4.0	0
	やはり受けないと思う(変化なし)	22.1	0	3.2	22.4	76.0	80.0
	受けたいと思っていたが受けなくなる	12.6	9.5	14.3	15.8	4.0	0
	その他	16.8	9.5	1.6	32.9	16.0	0
	無回答	3.2	9.5	0	3.9	0	20.0

②態度変化の理由（FA）

予防接種に対して、治療・予防薬が処方されても従来と「変わら」ずに【やはり受けると思う】とする理由は“かかってからの治療”より“予防”を優先する意識が最も多いことに加えて、「予防接種への信頼感」と「新薬の情報不足」が二の足を踏ませているためである。

予防接種を【やはり受けないと思う】ケースでは、もともと「予防接種の効果に疑問」があったり「新薬の副作用が心配」など“薬不信”的な意識が多いため、「生活習慣で予防」という者もいる。一方、【受けたいと思っていたが受けなくなると思う】と予防接種に対する態度に変化があったケースでは、「子供が注射を嫌がる」ことや「ワクチンのリスク」「予防接種の時間的・金銭的負担」などが主な理由である。

こうした結果になったのは、何と言っても“治療・予防薬”について、効果や用法について情報不足のためである。今後、この治療・予防薬が「予防効果が予防接種と同等」で「副作用がない」ということについて、实例に基づく情報を十分に提供され、コスト的にも折り合うものであれば、子供への身体的負担・親の時間的負担の双方を一緒に軽減できることでもあり、受け入れられる可能性は高いと思われる。

◆予防接種への態度の変化の理由(FA)

【やはり受けると思う（変化なし）】	69件
◇予防に関するもの（38件）	
・インフルエンザにかからないため／軽くすむ	16
・インフルエンザは怖い／命に関わる／脳炎になる	11
・子供が辛い思いをするから	11
◇予防接種への信頼（12件）	
・ワクチンは効果がある／ワクチンの方が安心感がある	12
◇新薬に関するもの（11件）	
・薬の効果や用法がまだわからない／情報不足	5
・新薬は副作用が心配	4
・薬が効果があるなら／一度試してみてもよい	3
・薬と予防接種の費用がかからない方を選ぶ	2
・薬と予防接種の有効な方を選ぶ	1
◇その他（4件）	
・あまり深く考えていない	1
・その他	3
【やはり受けないと思う（変化なし）】	37件
・予防効果のある薬なら予防接種は要らない／内服の方がよい	8
・予防接種はもともと受けるつもりがない／効果に疑問／副作用が	6
・インフルエンザの怖さを実感してない／かかったことがないので	5
・新薬の副作用が心配	5
・普段の生活習慣で予防	3
・何となく／面倒	3
・新薬の効果に疑問／薬で絶対はない	2
・お金がかかるから	2
・その他	3
【受けたいと思っているが受けなくなると思う】	23件
・子供が注射を嫌がる／内服なら痛い思いをさせずにすむので	7
・ワクチンは副作用が心配／リスクが少ないので	4
・効果があるので／ワクチンが必要ないと思うので	4
・時間の関係上／その都度病院に行けばいいのでラクだから	4
・予防接種は予約がとりにくいので	2
・予防接種は金額が高いので	2
【その他】	26件
・新薬の効果がわからない／情報不足	7
・インフルの知識が少ない／ワクチンか薬かどちらがよいかわからず	4
・流行の予測、子供の体力など諸条件を考えて決める／その時の状況	5
・子供の体質などで医者にご相談してから	3
・薬は極力使用したくない／自然治癒力に任せたい	3
・その他	4

インフルエンザに関する調査
(高齢者関連施設等)
報告書

2000年5月
株式会社 朝日エル

目 次

調査概要	113
対象者属性	114
調査結果の詳細	
Ⅰ インフルエンザについての知識と情報	
1. インフルエンザに関する知識	115
2. インフルエンザに関する入所者や家族の変化	116
3. 厚生省「インフルエンザは風邪じゃない」キャンペーン	117
4. インフルエンザ情報の入手経路	119
5. インフルエンザ情報の入手内容	120
6. インフルエンザに関する重要・不足情報	121
Ⅱ インフルエンザの予防の状況	
1. 入所者や家族からのインフルエンザに関する質問・要望	122
2. 予防接種(ワクチン)の実施状況	123
3. 予防接種(ワクチン)の効果	124
4. 予防接種(ワクチン)を実施しなかった理由	125
Ⅲ 来シーズンのインフルエンザの予防の状況	
1. 来シーズンの予防接種実施意向	126
2. 予防接種実施意向の理由	128
3. 今シーズンの予防接種と来シーズンの変化	129
4. 来シーズンにおける変化の理由	131
Ⅳ 治療・予防薬処方による予防接種の実施状況	
1. 治療・予防薬処方による来シーズンの方針の変化	132
2. 予防接種実施方針変化の理由	133
3. 予防接種実施の方針決定者	134
Ⅴ 感染症に関する要望	
1. インフルエンザなどの感染症に関する要望	135

調査概要

1. 調査の目的

この調査は、高齢者関連施設におけるインフルエンザに対する意識や日常の予防、対処などの実態を把握することにより、今後の情報提供のあり方を探ることを目的として実施した。

2. 調査対象

老人保健施設等120施設

3. 調査方法

郵送調査法

4. 調査時期

平成12年4月

5. 回収状況

発送数：120票

有効回収数：88票

◇報告書の見方

①回答は、各質問の回答者数(N)を基数とした百分率(%)で示してあるが、少数第2位を四捨五入してあるため、比率の合計が100%にならないことがある。

②2つ異常の回答ができる質問(MA)では、回答比率の合計が100%を超える。

対象者属性

◇施設規模

	N	入所者数 (%)					
		25人以下	26～50人	51～75人	76～100人	101人以上	入所者なし
全 体	88	8.0	42.0	11.4	26.1	11.4	1.1
小規模施設	44	15.9	84.1				
大規模施設	43			23.3	53.5	23.3	

- ・対象となった老人保健施設等は、入所者50人以下の〔小規模施設〕と入所者51人以上の〔大規模施設〕がほぼ半々である。
- ・〔小規模施設〕は大半が「26～50人」(84.2%)の施設であり、〔大規模施設〕は約半数が「76～100人」(53.5%)の施設である。

◇職員数

	N	職員数 (%)				
		20人以下	21～40人	41～60人	61～80人	81人以上
全 体	88	22.7	28.4	27.3	12.5	9.1
小規模施設	44	38.6	36.4	22.7	2.3	0
大規模施設	43	7.0	18.6	32.6	23.3	18.6

- ・施設全体では、「20人以下」「21～40人」「41～60人」のそれぞれが25%前後で分布している。
- ・〔小規模施設〕では、職員数が「20人以下」ないし「21～40人」の施設が多く、それぞれ4割弱を占めている。〔大規模施設〕では「41～60人」が最も多く、約3分の1を占めている。

◇医師人数(提携含む)

	N	医師人数 (%)				
		1人	2人	3人	4人以上	なし、または不明
全 体	88	56.8	22.7	6.8	4.5	9.1
小規模施設	44	63.6	15.9	6.8	2.3	11.4
大規模施設	43	51.2	30.2	7.0	7.0	4.7

- ・施設全体では医師数が2人以下の施設が約8割を占めており、その大半が「1人」(56.8%)である。
- ・医師数は施設規模によって異なる。〔小規模施設〕では医師「1人」が6割を越えており、約1割は医師がない可能性がある(なし、または不明11.4%)。

◇看護職人数(提携含む)

	N	看護職人数 (%)					
		2人以下	3～4人	5～6人	7～8人	9人以上	なし、または不明
全 体	88	28.4	34.1	13.6	8.0	9.1	6.8
小規模施設	44	43.2	36.4	6.8	0	0	13.6
大規模施設	43	14.0	30.2	20.9	16.3	18.6	0

- ・施設全体では、看護職員人数は4人以下が約6割を占めており、「3～4人」(34.1%)の施設の方が「2人以下」(28.4%)よりやや多い。
- ・医師数と同様、看護職人数も施設規模を反映しており、〔小規模施設〕では約8割が4人以下である。〔大規模施設〕では最も多いのは「3～4人」(30.2%)であるが、全体としては5人以上が過半数を占めている。

1. インフルエンザについての知識と情報

1. インフルエンザに関する知識 (MA)

老人保健施設等の対象施設では、昨年連続して発生した高齢者施設等でのインフルエンザ集団感染・死亡事故の報道からインフルエンザについては「高齢者では死に至ることもある病気」(90.9%)が最も高い割合を示している。また半数が「小児・幼児では脳炎を起こすことがある病気」(50.0%)をあげており、インフルエンザの危険性に対する認識は高い。

原因については主として「ウイルスによって引き起こされる病気」(84.1%)と認識されているが、「インフルエンザウイルスによって起こる伝染病」(58.0%)も過半数を占め、正確な認識が浸透しつつあることがわかる。

しかし割合としては少ないものの、「風邪がひどくなったもの」(9.1%)、「細菌によって引き起こされる病気」(2.3%)を挙げる施設もあり、誤解がまだ根強いことを示している。

こうした傾向について施設規模による顕著な差はなく、ほぼ同様の傾向を示している。

◆インフルエンザについての認知(MA) (%)

	全 体	小規模 施設	大規模 施設
N	88	44	43
1 高齢者では死に至ることもある病気	90.9	88.6	93.0
2 ウイルスによって引き起こされる病気	84.1	81.8	86.0
3 熱の高い病気	61.4	54.5	69.8
4 インフルエンザウイルスによって起こる伝染病	58.0	59.1	55.8
5 小児・幼児で脳炎を起こすことがある病気	50.0	45.5	55.8
6 何年かに1度大流行が起こる病気	45.5	50.0	41.9
7 感染力がとても強い伝染病	39.8	36.4	41.9
8 香港やロシアからくる風邪	22.7	20.5	25.6
9 風邪がひどくなったもの	9.1	4.5	14.0
10 細菌によって引き起こされる病気	2.3	4.5	0
11 弱った肺が原因で引き起こされる病気	1.1	2.3	0
12 その他	0	0	0
無回答	1.1	2.3	0

* 〔小規模施設〕：入所者50人以下

〔大規模施設〕：入所者51人以上

2. インフルエンザに関する入所者や家族の変化 (MA)

昨シーズン以後の変化としては、「予防接種(ワクチン)希望者が増えた」(62.5%)と「施設での集団感染を心配する人が増えた」(45.5%)について顕著である。

この他の変化としては2割弱が「ちゃんと休養をとる意識が強くなった」と答えているが、「インフルエンザと風邪の違いを知っている人が増えた」は17.0%にとどまっている。また5分の1近くの施設が「例年に比べて変化はない」(18.2%)と答えており、インフルエンザに関する情報が必ずしも十分に浸透していない様子が見える。

これらの変化があった割合は、〔大規模施設〕(入所者51人以上)の方が〔小規模施設〕(入所者50人以下)よりも高い傾向があり、特に「予防接種希望者が増えた」と「ちゃんと休養をとる意識が強くなった」については〔大規模施設〕の方が10ポイント以上〔小規模施設〕を上回っている。

◆インフルエンザに関する入所者や家族の変化(MA) (%)

		全 体	小規模施設	大規模施設
N		88	44	43
1	予防接種(ワクチン)希望者が増えた	62.5	59.1	67.4
2	施設での集団感染の心配をする人が増えた	45.5	45.5	46.5
3	ちゃんと休養をとる意識が強くなった	18.2	11.4	23.3
4	インフルエンザと風邪の違いを知っている人が増えた	17.0	13.6	20.9
5	比較的初期に症状を訴える人が増えた	10.2	6.8	14.0
6	インフルエンザの人が増えた	2.3	0	4.7
7	その他	3.4	2.3	4.7
8	例年に比べ特に変化はない	18.2	20.5	16.3
	無回答	1.1	2.3	0

3. 厚生省「インフルエンザは風邪じゃない」キャンペーン

①厚生省「インフルエンザは風邪じゃない」キャンペーンの浸透度

キャンペーンについて「知っている」と答えた施設は50.0%と半数に止まり、「聞いたことがあるような気がする」21.6%、「聞いたことはない」28.4%と、浸透度はまだ十分とは言えない。

なお、キャンペーンの認知状況について、施設規模による差は見られない。

◆「インフルエンザは風邪じゃない」キャンペーン (%)

	全 体	小規模 施設	大規模 施設
N	88	44	43
知っている	50.0	50.0	51.2
聞いたことがあるような気がする	21.6	20.5	23.3
聞いたことはない	28.4	29.5	25.6

②キャンペーンの情報入手経路 (MA)

「インフルエンザは風邪じゃない」キャンペーンを「知っている」と答えた人(44人)がキャンペーンを知った先は、「健保組合や所属団体の機関紙・セミナー等で」が40.9%と最も多い。その他の媒体としては、「新聞」(27.3%)、「テレビ」(22.7%)などマスコミ関連が主なものである。

キャンペーン認知媒体はいずれの施設もほぼ同率で、施設規模による相違はほとんどない。

◆キャンペーンを知った媒体(MA) (%)

	全 体	小規模 施設	大規模 施設
N	88	44	43
1 健保組合や所属団体の機関紙・セミナー等で	40.9	40.9	40.9
2 新聞	27.3	27.3	27.3
3 テレビ	22.7	22.7	22.7
4 保健所	11.4	9.1	13.6
5 医師	4.5	4.5	4.5
6 ラジオ	4.5	0	9.1
7 その他	27.3	31.8	22.7
無回答	2.3	0	4.5

③キャンペーンに連動して行った活動 (MA)

キャンペーンを知った施設では、7割前後が「予防接種(ワクチン)の実施」(2.7%)や「ポスター等の掲示」(65.9%)を行っている。特に「予防接種(ワクチン)の実施」は〔小規模施設〕(86.4%)、「ポスター等の掲示」は〔大規模施設〕(81.8%)で行っている割合が高く、いずれも8割を越えている。

その他にも「予防接種(ワクチン)の説明・すすめ」(43.2%)や「生活指導」(31.8%)などが行われているが、入所者に対する「インフルエンザと風邪の違いを説明」は11.4%と実施率が低い。これは実質的には他の活動の一部に含まれていると考えたため、あるいは既に入所者が知っているので必要性が薄いと考えたためかどうかは不明だが、予防接種の促進や生活指導の効果を上げるための基盤としては、もう少し実施されていてもよいのではないと思われる。

実施項目は施設規模による相違が見られ、〔小規模施設〕では「予防接種(ワクチン)の実施」、〔大規模施設〕では「ポスター等の掲示」が中心となっている。

◆キャンペーンに連動した活動の実施状況(MA) (%)

	全 体	小規模 施設	大規模 施設
N	88	44	43
1 予防接種(ワクチン)の実施	72.7	86.4	59.1
2 ポスター等の掲示	65.9	50.0	81.8
3 予防接種(ワクチン)の説明・すすめ	43.2	40.9	45.5
4 生活指導	31.8	27.3	36.4
5 インフルエンザと風邪の違いを説明	11.4	4.5	18.2
6 その他	2.3	0	4.5
7 特に実施しなかった	2.3	4.5	0

4. インフルエンザ情報の入手経路

最新情報の入手先は「施設に勤務する医師」(73.9%)が最も多く、次いで「新聞」(67.0%)、「テレビニュース」(56.8%)などマスコミが中心となっている。これに対して「厚生省」(28.4%)をはじめ「保健所」「市町村などの広報」など公的機関からの入手は、それぞれ1/4程度である。情報の入手経路について施設規模による顕著な差はなく、同様の傾向にあるが、「厚生省」については〔大規模施設〕(37.2%)の方が〔小規模施設〕(20.5%)よりも多く情報を得ている。

◆インフルエンザ情報入手経路(MA) (%)

		全 体	小規模 施設	大規模 施設
N		88	44	43
1	施設に勤務する医師	73.9	75.0	74.4
2	新 聞	67.0	68.2	67.4
3	テレビニュース	56.8	61.4	53.5
4	厚生省	28.4	20.5	37.2
5	保健所	25.0	25.0	23.3
6	市町村などの広報	23.9	22.7	23.3
7	上記以外の病院・診療所	22.7	22.7	23.3
8	テレビ番組	17.0	15.9	18.6
9	その他の雑誌	8.0	4.5	11.6
10	ラジオ	8.0	9.1	7.0
11	専門誌	6.8	4.5	9.3
12	インターネット	6.8	6.8	7.0
13	国立感染症研究所	2.3	2.3	2.3
14	入所者の家族	2.3	4.5	0
15	その他	8.0	9.1	7.0

5. インフルエンザ情報の入手内容 (MA)

入手している情報は、「流行の状況」(79.5%)や「流行する型・ウイルス」(56.8%)など“流行”に関する情報と、「ワクチン・予防薬」(64.8%)に関する情報が多い。次いで「生活指導」や「専門家の所見」が約3割と比較的多い。情報の入手状況は〔小規模施設〕〔大規模施設〕とも同様に、施設規模による差はあまりみられない。その中では「治療薬の副作用・副効用」について施設規模による差があり、〔小規模施設〕(27.3%)の方が〔大規模施設〕(9.3%)よりも入手している割合が高い。

◆入手しているインフルエンザ情報の内容(MA) (%)

		全 体	小規模 施設	大規模 施設
N		88	44	43
1	流行の状況	79.5	75.0	83.7
2	ワクチン・予防薬	64.8	68.2	62.8
3	流行する型・ウイルス	56.8	56.8	58.1
4	生活指導	35.2	31.8	39.5
5	専門医の所見	31.8	29.5	34.9
6	治療薬の副作用・副効用	18.2	27.3	9.3
7	重要な症例	17.0	18.2	16.3
8	他団体・施設の取り組み例	17.0	18.2	16.3
9	治療薬	11.4	9.1	14.0
10	プライマリケア情報	3.4	2.3	4.7
11	その他	1.1	2.3	0
	無回答	1.1	0	2.3